

チーム名	ミライノ芝山	大学名・学部	千葉大学文学部/ 法政経学部	ニューノーマルステージ
プラン名称	しばっこ参道計画			
テーマ	ニューノーマル時代に対応する観光まちづくり			
リーダー名	北川 颯大	メンバー名	北川颯大、平野綾佳、齋木晴菜	
指導教職員名	阿部 厚司			

1. 問題認識

芝山町では、成田空港の開港をめぐり町が割れた歴史がある。分裂した町を戻すため、昭和57年から「はにわ祭り」が毎年開催されていた。しかし台風やコロナによって3年連続で中止となった。町では町民同士の繋がりの希薄化が進む。

また、町民は「はにわ祭りは金銭面などで負担が大きい」と嘆く。そこで、

空港の滑走路が芝山町に延伸決定

「滑走路延伸による被害増加」、「町民の繋がりの希薄化」、「はにわ祭りに対する町民のモチベーションの低下」が重なった芝山町。

2. 問題の解決策

- ・町民が日常的に繋がりを感ぜられる工夫が必要
- ・町民に負担のない形で関係人口を増やし、町に活気を！
- ・人口増加を望む町民。まずは町の認知拡大！



観光という側面からのまちづくりというアプローチが必須！

しばっこ参道計画



3. 提案プランの実現計画

①ブランディング

- ・名前をつける/統一感を持たせる/名物を作る
- 芝山町の3つのエリアを結ぶ全長約8キロの歴史エリアへの“参道”。かつて栄えた芝山仁王尊の参道と町のキャラクターの

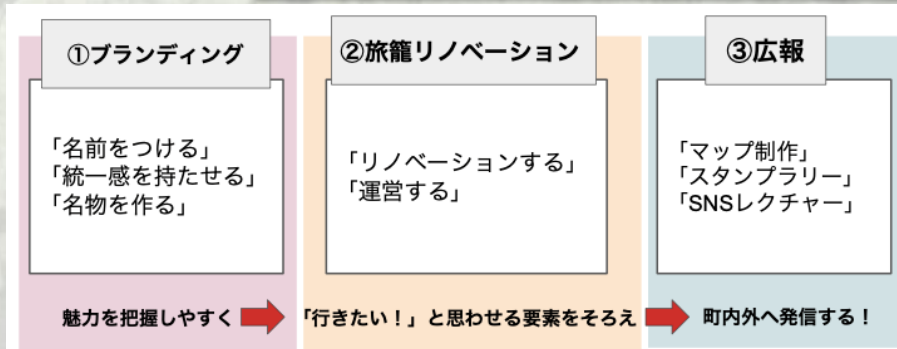
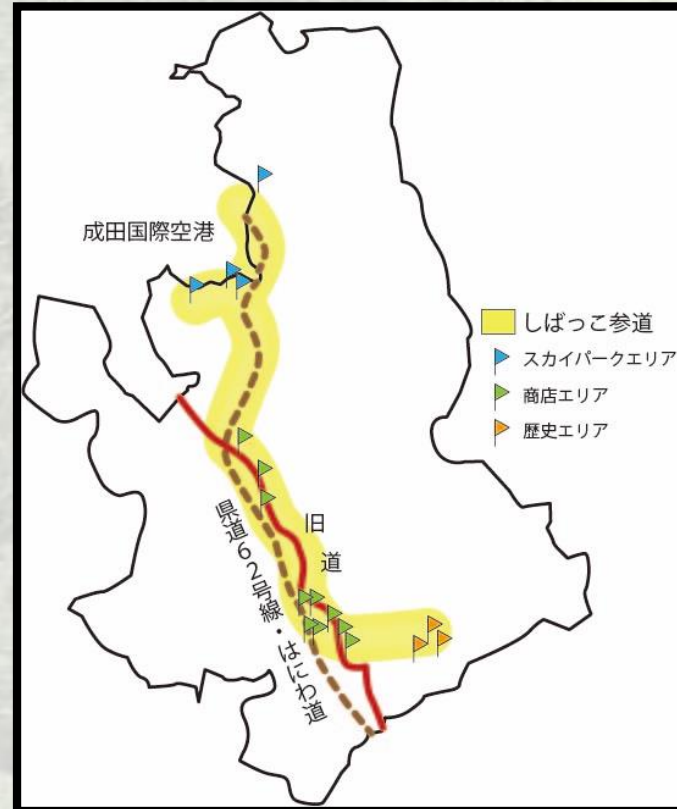
名前を掛け合わせたネーミングで町の歴史を新たな形で受け継いでいく。

②旅籠リノベーション

- ・リノベーションする/運営する
- 芝山仁王尊の参道に残る旅籠を宿泊施設として生まれ変わらせる。必要経費は4年程度で回収が予想される。
- また、町内での雇用を創出することで町の自走を目指す。

③広報

- ・マップ制作 / スタンプラリー / SNSレクチャー
- 観光客、特に「芝山=空港」のイメージしか持っていない層へのPR



4. 提案プランによる効果

- ・しばっこ参道としてブランディングすることにより、「芝山=空港」のイメージしか持っていない観光客に街の魅力を認知させることができる。
- ・はにわ祭り変わる新たなコミュニティであるしばっこ参道は、町民の日常生活に溶け込み、希薄化した町民同士の繋がりを強固なものにする。
- また、町民に負担を強いまないという点を重視しており、一過性のイベントで終わることなく持続的にまちづくりを行うことができる。

5. 提案プランの新規性

- ・参道という言葉で芝山町を縦断する約8キロの道のりに使用し、物理的距離の離れたお店に繋がりを一体感をもたらすというアイデアである。
- ・町が割れたという負の歴史から逃げず、空港建設の際の出来事を展示した博物館と移住を余儀なくされた商店がしばっこ参道に参加することで町のオリジナルなストーリーを理解してもらえるアイデアである。
- ・旅籠を宿泊施設として運営し、町内での雇用を目指すことで、町民を「まちづくりの主体」とするアイデアである。